

2009～2011 年度  
FD 活動報告書

サイバー大学 FD 委員会

2012 年 8 月

## はじめに

サイバー大学(以下、本学という)は2007年4月に開学したすべての授業をeラーニングで行うオンライン大学です。

2007年7月31日、大学設置基準等の一部を改正する省令(平成19年文部科学省令第22号)が公布され、2008年4月1日より大学におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)の義務化が以下のように施行されました。

### 教育内容等の改善のための組織的な研修等に関する事項

大学設置基準第25条の3の規定によるいわゆるファカルティ・ディベロップメント(FD)については、これまで努力義務であったものを義務化するものであるが、これは大学の各教員に対し義務付けるものではなく、各大学が組織的に実施することを義務付けるものであること。これを踏まえ、各大学においては、授業の内容及び方法の改善につながるような内容の伴った取組を行うことが望まれること。

本学でも2009年度からFD委員会を設置して教育改善に対する取組を行っています。本学における授業改善の取組は2007年の開学以来、学生による授業評価アンケートを実施するという形でFD委員会を設置される前から行ってきました。

FD委員会では、委員会が設置される前まで行われていた取組をもとにして、eラーニングを実践する本学においてどのような教育改善を実施すべきかという課題に取り組んできました。

eラーニングで教育を行うためには授業コンテンツを作成しなければなりません。eラーニングにおける授業コンテンツ開発は容易なものではないため、教材開発のノウハウ等を紹介する「FDコンテンツ」といった教員のための教育研修教材の開発なども委員会の活動として行ってきました。

FDはFaculty Developmentの略でFacultyは大学における教員組織のことを指します。つまり、FD活動は教員組織の教育研究活動全般に関する改善を目的として行うものであり、FD委員会が実施すべき活動は多岐に渡ります。

この報告書は、FD委員会が「FDコンテンツ」を作成してeラーニングによる教育を実践し、いかにして改善のためのサイクルを構築するかという課題に取り組んでいた2009年から2011年までの活動の報告をまとめたものです。

本学では2011年度からWeb Based Training型の教材の開発を行い、さらに2012年度には新しい学習管理システム(LMS)を導入しており、ますますFD活動で取り組むべき課題が山積しております。

2012年度以降のFD活動のためにもこれまでの活動内容を振り返ることはFD委員会としても大切であり、またこれらの内容を学外に向けて公表することは日本初の完全オンライン大学であるサイバー大学にとって重要な責務であるという考えのもとでこの報告書をまとめております。今後はeラーニングを実践する大学として、eラーニングのメリットを学内のみならず学外にも情報共有できる仕組みを準備していきたいと考えています。

## 目 次

はじめに

目次

### 1. FD 委員会概要

1-1. FD 委員会の目的と役割…………… 1

1-2. FD 委員会の活動概要…………… 2

### 2. 教員研修

2-1. FD 研究会…………… 3

2-2. オンライン研修…………… 4

### 3. 授業改善

3-1. 授業評価アンケート…………… 7

3-2. 授業改善計画書…………… 16

3-3. オンライン授業参観…………… 17

3-4. 授業コンサルティング…………… 18

4. まとめ…………… 19

# 1. FD 委員会概要

## 1-1. FD 委員会の目的と役割

サイバー大学(以下「本学」という。)のファカルティ・ディベロップメント(本学及び本学の教員が、教育の質的向上を図るために組織的に取り組む活動をいう。以下「FD」という。)活動を推進するにあたり、FD 委員会を設置している。

FD 委員会は以下の事項を審議する。

- (1) 教員の教育内容、方法の改善、教育技術の向上に関する事項
- (2) 前号についての各学部等の取り組みの推進に関する事項
- (3) 学生による授業評価アンケートの企画・実施・集計・分析・評価に関する事項
- (4) その他FDの推進に関する事項

「サイバー大学 FD 委員会規程」より

FD 委員会のミッションを以下に示す。

FD 委員会のミッション	
建学の精神を踏まえ、学びを求める幅広い学生に対し、より質が高く満足度の高い教育を与えることができるよう教員の教育内容、教授法の改善、教育技術の向上に関する活動や研修を企画・実施する。	
また、学生による授業評価アンケートの企画・実施、および教員へのフィードバックを通じて定期的、かつ継続的に教員が授業の改善を検討する体制を構築するなど、組織的に教育の質的向上に取り組む。	
2010 年 3 月	

FD 委員は、委員長、教務部長、教務主任、委員長が必要に応じて指名する教職員で構成される。年次別の構成員は以下の通りである。

2009 年度

委員長	野崎 昭弘 (IT 総合学部)
委員	小野 邦彦 (教務部長)
	勝 眞一郎 (IT 総合学部 教務主任)
	小柳 美樹 (世界遺産学部 教務主任)
	坂本 美枝 (語学 教務主任)
	藤田 礼子 (教養 教務主任)、 半田 純子 (IDer、語学教員)※
	新垣 円 (IT 総合学部 助手)

※IDer・・・インストラクショナルデザイナー

2010 年度

委員長	野崎 昭弘 (IT 総合学部)
委員	小野 邦彦 (教務部長) 後藤 幸功 (IT 総合学部 教務主任) 小柳 美樹 (世界遺産学部 教務主任) 坂本 美枝 (語学 教務主任) 藤田 礼子 (教養 教務主任) 半田 純子 (IDer、語学教員) 松田 健 (IT 総合学部 助手) 本間 千恵子 (IDer、コンテンツ制作センター)

2011 年度

委員長	清尾 克彦 (IT 総合学部)
委員	小野 邦彦 (教務部長) 後藤 幸功 (IT 総合学部 教務主任) 澤井 計宏 (世界遺産学部 教務主任) 藤田 礼子 (教養 教務主任) 坂本 美枝 (語学 教務主任) 松田 健 (IT 総合学部 教務主任代行) 半田 純子 (IDer、語学教員) 本間 千恵子 (IDer、教務部)

## 1-2. FD 委員会の活動概要

FD 委員会は、2009 年度に 16 回、2010 年度に 12 回、2011 年度に 17 回開催した。FD 委員会の活動概要は以下の通りである。

	活動概要
2009 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD 研究会「授業設計のポイント: インストラクショナルデザイン」の開催 (5/29)</li> <li>・FD 研究会「ICT を活用するための FD —アメリカ大学の FD 事例」の開催 (11/27)</li> <li>・FD 研究会「効果的な授業運営 ～e ラーニングにおけるコミュニケーション～」の開催(3/26)</li> <li>・授業評価アンケートの見直し</li> <li>・授業改善計画書の運用</li> <li>・授業評価アンケートの基準値設定と弁明書(授業改善)の運用</li> <li>・オンライン研修「FD コンテンツ」の監修</li> <li>・2009 年度 FD 活動アンケートについて</li> </ul>

2010 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD 研究会「授業における blog の活用について」の開催(7/16)</li> <li>・FD 研究会「本学のモバイル・ラーニングの実施計画と実績」の開催(3/7)</li> <li>・卒業研究の授業評価アンケート項目の検討</li> <li>・オンライン授業参観の運用</li> <li>・授業改善計画書の運用</li> <li>・授業の評価・改善における教員支援体制(授業コンサルティング)の整備</li> <li>・2009 年度授業評価アンケート集計結果報告書の作成</li> <li>・オンライン研修「FD コンテンツ」の監修</li> </ul>
2011 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD 研究会「Moodle を用いた授業運営の方法」の開催(6/7)</li> <li>・FD 研究会「学生の声を活かしたサイバー大学ティーチングティップス集」の開催(12/16)</li> <li>・FD 研究会「サイバー大学における小テストの作成方法」の開催(2/13)</li> <li>・オンライン研修「FD コンテンツ」の監修</li> <li>・授業評価アンケートの実施</li> <li>・卒業研究科目の授業評価アンケート設問項目の見直し</li> <li>・「2010 年度授業評価アンケート集計結果報告」の作成</li> <li>・授業改善計画書の運用</li> <li>・オンライン授業参観の運用</li> <li>・「学生の声を活かしたサイバー大学ティーチングティップス集」の作成</li> </ul>

## 2. 教員研修

### 2-1. FD 研究会

講演形式の FD 研究会を、2009 年度から 2011 年度にかけて 8 回開催した。以下に、FD 研究会の開催概要を示す。参加人数の集計は 2010 年 3 月より行っている。

#### <2009 年度>

##### 第 1 回 FD 研究会

日 時	2009 年 5 月 29 日 15:00～16:30
場 所	サイバー大学 東京オフィス
テーマ	「授業設計苦労話」
講 師	野崎昭弘(サイバー大学教授、FD 委員長)
テーマ	「授業設計のポイント:インストラクショナルデザイン」
講 師	鈴木克明先生(熊本大学大学院教授・教授システム学専攻長)

## 第2回 FD 研究会

日 時 2009年11月27日 15:30～17:30  
場 所 サイバー大学 東京オフィス  
テーマ 「ICTを活用するためのFD ―アメリカ大学のFD事例」  
講 師 苑復傑先生(放送大学 ICT活用・遠隔教育センター教授)

## 第3回 FD 研究会

日 時 2010年3月26日 15:30～17:30  
場 所 サイバー大学 東京オフィス  
テーマ 「効果的な授業運営 ～eラーニングにおけるコミュニケーション～」  
講 師 松田岳士先生(山形大学 教育企画室 講師)  
参加者数 38名

## <2010年度>

### 第1回 FD 研究会

日 時 2010年7月16日 15:30～17:30  
場 所 サイバー大学 東京オフィス  
テーマ 「授業におけるblogの活用について」  
講 師 舛井一仁先生(弁護士、国土館大学教授)  
参加者数 34名

### 第2回 FD 研究会

日 時 2011年3月7日 14:00～16:00  
場 所 サイバー大学 東京オフィス  
テーマ 「本学のモバイル・ラーニングの実施計画と実績」  
講 師 川原洋(サイバー大学教授)、遠藤孝治(サイバー大学助教)  
テーマ 「サイバー大学におけるFD活動の現状と将来」  
講 師 野崎昭弘(サイバー大学教授)  
参加者数 19名

## <2011年度>

### 第1回 FD 研究会

日 時 2011年6月7日 15:00～17:00  
場 所 サイバー大学 東京オフィス  
テーマ 「Moodleを用いた授業運営の方法」  
講 師 喜多敏博先生(熊本大学大学院教授システム学専攻 教授、eラーニング推進機構 教授)  
参加者数 20名

## 第2回 FD 研究会

日 時 2011年12月16日 15:00～15:30  
場 所 サイバー大学 東京オフィス  
テーマ 「学生の声を活かしたサイバー大学ティーチングティップス集」  
講 師 清尾克彦(サイバー大学教授、FD 委員長)  
参加者数 27名

## 第3回 FD 研究会

日 時 2012年2月13日 15:00～16:30  
場 所 サイバー大学 東京オフィス  
テーマ 「サイバー大学における小テストの作成方法」  
講 師 後藤幸功(サイバー大学教授)  
参加者数 19名

## 2-2. オンライン研修

対面研修である FD 研究会の他に、オンラインでの研修も実施している。オンライン研修(「FD コンテンツ」と呼ぶ)は、大学の LMS(Learning Management System)を使用した研修で、サイバー大学の教員が必要とするオンライン大学における効果的・効率的・魅力的な授業コンテンツ制作・授業運営の方法等について理解を深め、FD 活動の意義に照らして組織的な授業改善の取組を促進することを目的としたオンライン研修である。コンテンツは VOD (Video on Demand)方式で配信し、内容理解度の定着を図る目的で各回に小テスト受験を課し、研修効果を測定している。受講対象者は、専任教員及び専門科目を担当する客員教員とし、2011年度終了時点で1回以上(全8回構成)受講した教員は53名(対象者の70.6%)となっている。対象者に実施したアンケートでは、「教育活動の変化について(複数回答可)」について、「授業コンテンツ制作/コンテンツ改修」、「ディベートルーム運営」、「学生への対応」、「小テスト作成/見直し」、「TAとの関わり」について FD コンテンツ受講後に教授活動で工夫をしたという回答が得られた。

### 【FD コンテンツの学習目標】

- ・サイバー大学の教育システムを経験することにより学生の受講環境を理解する。
- ・授業コンテンツ制作・授業運営に関する基礎知識を身につける。
- ・大学の理念に基づいて教育活動をすることができる。

また、学生と同じ受講環境を体験することも目的に含まれているため、FD コンテンツは教養科目と同じ8回構成、各回は4章の VOD 形式のコンテンツで構成し、各回から小テストを8問出題することとした。学習目標を明確にするため、『大学力を創る:FD ハンドブック』(大学セミナー・ハウス, 1999, p.17)の FD 活動の12項目を参考にした。FD コンテンツの回ごとの学習目標と構成を以下に示す。



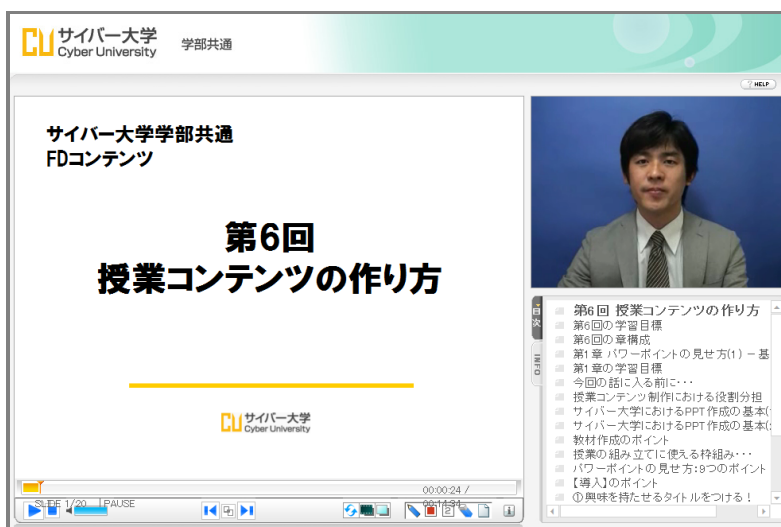
【回ごとの学習目標】

- 第1回:FD についての基礎知識を理解する。
- 第2回:大学の理念及び専任教員が果たすべき役割を理解する。
- 第3回:オンライン大学で行う教授活動の特徴を理解する。
- 第4回:カリキュラム構成の概要を理解する。
- 第5回:授業設計書の重要性について理解する。
- 第6回:効果的で魅力的な授業コンテンツの作り方を理解する。
- 第7回:効果的な授業運営方法について理解する。
- 第8回:授業コンテンツ改善、授業運営改善ための取り組みについて理解する。

FD コンテンツ構成

	回	回タイトル	内容	FDハンドブックとの対応
サイバー大学とFD	第1回	FDとは何か	①FDって何?—定義と範囲— ②FDはなぜ必要?—社会の変化と大学改革— ③FDの先進的取り組み ④サイバー大学の取り組み	①～⑫概要説明
	第2回	サイバー大学とは	①学長からのメッセージ ②学生のキャンパスライフ ③教員の役割 ④教員支援の組織体制	①大学の理念・目標を紹介するワークショップ ②ベテラン教員による新任教員への指導 ⑪大学教員の倫理規定と社会的責任の周知
	第3回	オンライン大学の事例と展望	①日本のオンライン大学の事例 ②韓国のオンライン大学 ③米国・英国のオンライン大学 ④オンライン大学で教えることとは	③教員の教育技法を改善するための支援プログラム
	第4回	カリキュラム	①カリキュラムとは—教育の質を担保するためのカリキュラム— ②サイバー大学のポリシー ③教養・語学カリキュラム ④IT総合学部のカリキュラム	④カリキュラム改善プロジェクトへの助成 ⑤教育制度の理解
授業の進め方	第5回	授業設計書の書き方	①授業設計書の重要性 ②全体/回別計画書の書き方 ③小テストの意義 ④小テストの具体例	③教員の教育技法を改善するための支援プログラム
	第6回	授業コンテンツの作り方	①パワーポイントの見せ方(1)—基本と導入— ②パワーポイントの見せ方(2)—展開とまとめ— ③サイバー大学における著作権処理(1)—許諾と引用の要件— ④サイバー大学における著作権処理(2)—引用事例と学習資料—	③教員の教育技法を改善するための支援プログラム
	第7回	授業運営	①授業運営上の留意点 ②演習科目の運営 ③メンターの職責と協働 ④ディベートの効果的な運用	③教員の教育技法を改善するための支援プログラム
	第8回	授業評価と改善	①学生授業評価アンケートの意義 ②学生授業評価アンケートの概要 ③授業評価アンケート結果に基づく授業の見直し ④授業改善のアイデア	③教員の教育技法を改善するための支援プログラム ⑥アセスメント (②ベテラン教員による新任教員への指導)
【授業コンテンツ構成】各回4章構成				
【学習方法】授業コンテンツの視聴、小テスト				
【使用するLMS】サイバー大学LMS・・・学生用ページを使う。				

VODコンテンツは学内のコンテンツ制作センターが制作し、FD委員会が監修した。2009年7月より順次配信し、2011年11月に全てのコンテンツが完成した。



授業コンテンツの作り方についてのコンテンツ

### 3. 授業改善

#### 3-1. 授業評価アンケート

##### (1)実施方法

授業評価アンケートは全受講者を対象に、2007年度春学期より全科目において実施している。全ての授業はインターネットで配信しているため、学生専用サイトと呼ばれるLMS (Learning Management System) 上でアンケートを実施した。IT総合学部、世界遺産学部、教養、語学の各科目の最終授業回にアンケートを設置し、授業評価アンケートに回答しないと授業を視聴できない仕組みとなっている。質問項目に対して1～5の5段階で回答を求めた。また、自由記述の欄も設けている。

2011年度春学期 授業評価アンケート
以下のアンケートにお答えください。 次学期以降、より充実した授業を行うために活用させていただきます。 アンケートの回答が成績評価に影響することはありません。 また、個人名が公開されることもありません。
授業評価 -
1. 授業の学習目標が理解できた
<input type="radio"/> 全くそう思わない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> 非常にそう思う
2. 授業の内容が理解できた
<input type="radio"/> 全くそう思わない <input type="radio"/> あまりそう思わない <input type="radio"/> どちらでもない <input type="radio"/> ややそう思う <input type="radio"/> 非常にそう思う

学生専用サイト上のアンケートフォーム(抜粋)

(2)質問項目

FD 委員会が発足した 2009 年 4 月より、授業評価アンケート項目の見直しを行ってきた。以下は、FD 委員会が見直しを行った授業評価アンケートを実施した時期と変更内容である。

実施時期	変更内容
2009 年度秋学期	質問内容変更、新規質問追加、選択肢変更
2010 年度春学期	卒業研究科目開始により、既存の項目より卒業研究に適切な質問を選択
2011 年度春学期	卒業研究科目向けの質問内容設定

2009 年度春学期以降の質問項目を以下に示す。

質問項目 (2009 年度春学期)

Q	質問項目(講義・演習科目)	選択肢				
		1	2	3	4	5
1	あなたはこの授業を理解できましたか。	理解できなかった	あまり理解できなかった	普通	理解できた	とてもよく理解できた
2	あなたにとって、この授業で提供された参考資料や関連資料は、理解を深めるのに役に立ちましたか。	役に立たなかった	あまり役に立たなかった	普通	役に立った	とても役に立った
3	あなたにとって、この授業は該当分野の知識や技術の習得に役立ち、より関心が深まりましたか。	役に立たなかった	あまり役に立たなかった	普通	役に立った	とても役に立った
4	あなたにとって、講師の話し方の速さやテンポ、音量は適切でしたか。	そう思わない	あまりそう思わない	普通	そう思う	とてもそう思う
5	あなたがこの授業の 1 回分(60 分)について、授業視聴時間を除く、学習時間は平均して何分でしたか。	30 分以下	約 60 分	約 90 分	約 120 分	150 分以上
6	(演習のみ)1 回の発表あるいはレポート作成のための下調べに、平均してどれぐらい時間を要しましたか。	30 分以下	約 60 分	約 90 分	約 120 分	150 分以上
7	(演習のみ)1 回の発表あるいはレポート作成のための資料作成(PowerPoint または word)に、平均してどのぐらい時間を要しましたか。	30 分以下	約 60 分	約 90 分	約 120 分	150 分以上
8	あなたにとって、コンテンツのスライドの文字、イラスト、動画、図表、写真等は見やすかったですか。	そう思わない	あまりそう思わない	普通	見やすかった	とても見やすかった

9	あなたにとって、小テストやレポート等の課題出題難易度は適切で効果的でしたか。	そう思わない	あまりそう思わない	普通	そう思う	とても思う
10	あなたにとって、ディベートルームの運営は適切で効果的でしたか。	そう思わない	あまりそう思わない	普通	そう思う	とても思う
11	あなたにとって、メンターのサポートは適切で効果的でしたか。	そう思わない	あまりそう思わない	普通	そう思う	とても思う
12	受講を終えた全体的な満足度はどうでしたか。	満足しなかった	あまり満足しなかった	普通	満足できた	とても満足できた
13	この授業に関するご意見・ご感想をご記入ください。	自由記述				

### 2009 年度秋学期以降の選択肢

全体	満足度
1. 全くそう思わない	1. 非常に不満
2. あまりそう思わない	2. やや不満
3. どちらでもない	3. どちらでもない
4. ややそう思う	4. やや満足
5. 非常にそう思う	5. 非常に満足
難易度	量
1. 易しすぎる	1. 少なすぎる
2. 易しい	2. 少ない
3. どちらでもない	3. どちらでもない
4. 難しい	4. 多い
5. 難しすぎる	5. 多すぎる

### 質問項目 (2009 年度秋学期)

Q1～Q21 は 5 段階評価、Q22～Q24 は自由記述。

Q	質問項目 (講義・演習科目)
1	授業の学習目標が理解できた
2	授業内容が理解できた
3	授業を通して新たに専門的知識を習得できた
4	スライドの文字は見やすかった
5	スライドの画像(図・写真)は見やすかった
6	スライドの内容は授業の理解に役立った
7	音声の大きさは適切だった
8	教員の話し方の速さやテンポは適切だった
9	学習の理解に役立つ学習資料の提供があった
10	教員の教育に対する熱意が感じられた
11	教員は学生の質問に適切に答えていた
12	メンターは学生の質問に適切に対応していた

13	メンターの励ましは学習の継続に役立った
14	ディベートルームは発言しやすい雰囲気だった
15	授業を受けて、より関心が高まった
16	授業内容について、自分自身でもさらに深く調べた
17	小テストの難易度は？（※演習科目の場合は「適用外設問」を選択してください）
18	演習課題の難易度は？（※講義科目の場合は「適用外設問」を選択してください）
19	授業コンテンツ(ビデオ・スライド)の学習内容量は？（※演習科目の場合は「適用外設問」を選択してください）
20	演習課題の量は？（※講義科目の場合は「適用外設問」を選択してください）
21	受講を終えた全体的な満足度は？
22	授業について、よかったと思う点や来学期も続けてほしいと思う点があれば、ご記入ください。
23	授業について、来学期は改善してほしいと思う点があれば、ご記入ください。
24	その他にも授業コンテンツ(ビデオ・スライド)や授業運営に関するご意見があればご自由にご記入ください。

#### 質問項目(2010年度春学期)

Q1～Q21は5段階評価、Q22～Q24は自由記述。

Q	質問項目(講義・演習・卒研科目共通)
1	授業または卒業研究指導の学習目標が理解できた
2	授業または卒業研究指導の内容が理解できた
3	授業を通して新たに専門的知識を習得できた
4	スライドの文字は見やすかった（卒研の場合は「どちらでもない」を選択してください）
5	スライドの画像(図・写真)は見やすかった（卒研の場合は「どちらでもない」を選択してください）
6	スライドの内容は授業の理解に役立った（卒研の場合は「どちらでもない」を選択してください）
7	音声の大きさは適切だった（卒研の場合は「どちらでもない」を選択してください）
8	教員の話し方の速さやテンポは適切だった（卒研の場合は「どちらでもない」を選択してください）
9	学習の理解に役立つ学習資料の提供があった
10	教員の教育に対する熱意が感じられた
11	教員は学生の質問に適切に答えていた
12	メンターは学生の質問に適切に対応していた
13	メンターの励ましは学習の継続に役立った
14	ディベートルームは発言しやすい雰囲気だった
15	授業または卒業研究指導を受けて、より関心が高まった
16	授業内容について、自分自身でもさらに深く調べた
17	小テストの難易度は？（演習・卒研の場合は「どちらでもない」を選択してください）

18	演習課題の難易度は？（講義・卒研の場合は「どちらでもない」を選択してください）
19	授業コンテンツ(ビデオ・スライド)の学習内容量は？（演習・卒研の場合は「どちらでもない」を選択してください）
20	演習課題の量は？（講義・卒研の場合は「どちらでもない」を選択してください）
21	受講を終えた全体的な満足度は？
22	授業あるいは卒業研究指導について、よかったと思う点や来学期も続けてほしいと思う点があれば、ご記入ください。
23	授業あるいは卒業研究指導について、来学期は改善してほしいと思う点があれば、ご記入ください。
24	その他にも授業コンテンツ(ビデオ・スライド)や授業運営、卒業研究指導の進め方に関してご意見があればご自由にご記入ください。

### 質問項目(2010年度秋学期)

Q1～Q19は5段階評価、Q20～Q22は自由記述。Q17, Q18は講義、演習科目によって表示される質問項目が異なる。

Q	質問項目(講義・演習科目)
1	授業の学習目標が理解できた
2	授業の内容が理解できた
3	授業を通して新たに専門的知識を習得できた
4	スライドの文字は見やすかった
5	スライドの画像(図・写真)は見やすかった
6	スライドの内容は授業の理解に役立った
7	音声の大きさは適切だった
8	教員の話し方の速さやテンポは適切だった
9	学習の理解に役立つ学習資料の提供があった
10	教員の教育に対する熱意が感じられた
11	教員は学生の質問に適切に答えていた
12	メンターは学生の質問に適切に対応していた
13	メンターの励ましは学習の継続に役立った
14	ディベートルームは発言しやすい雰囲気だった
15	授業を受けて、より関心が高まった
16	授業内容について、自分自身でもさらに深く調べた
17	(講義科目)小テストの難易度は？ (演習科目)演習課題の難易度は？
18	(講義科目)授業コンテンツ(ビデオ・スライド)の学習内容量は？ (演習科目)演習課題の量は？
19	受講を終えた全体的な満足度は？
20	授業について、よかったと思う点や来学期も続けてほしいと思う点があれば、ご記入ください。
21	授業について、来学期は改善してほしいと思う点があれば、ご記入ください。
22	その他にも授業コンテンツ(ビデオ・スライド)や授業運営に関してご意見があればご自由にご記入ください。

Q1～Q12は5段階評価、Q13～Q15は自由記述。

Q	質問(卒業研究科目)
1	卒業研究指導の学習目標が理解できた
2	卒業研究指導の内容が理解できた
3	卒業研究指導を通して新たに専門的知識を習得できた
4	学習の理解に役立つ学習資料の提供があった
5	教員の教育に対する熱意が感じられた
6	教員は学生の質問に適切に答えていた
7	メンターは学生の質問に適切に対応していた
8	メンターの励ましは学習の継続に役立った
9	ディベートルームは発言しやすい雰囲気だった
10	卒業研究指導を受けて、より関心が高まった
11	卒業研究指導の内容について、自分自身でもさらに深く調べた
12	受講を終えた全体的な満足度は？
13	卒業研究指導について、よかったと思う点や来学期も続けてほしいと思う点があれば、ご記入ください。
14	卒業研究指導について、来学期は改善してほしいと思う点があれば、ご記入ください。
15	その他にも卒業研究指導の進め方に関してご意見があればご自由にご記入ください。

質問項目(2011年度春・秋学期)

Q1～Q19は5段階評価、Q20～Q22は自由記述。Q17, Q18は講義、演習科目によって表示される質問項目が異なる。

Q	質問項目(講義・演習科目)
1	授業の学習目標が理解できた
2	授業の内容が理解できた
3	授業を通して新たに専門的知識を習得できた
4	スライドの文字は見やすかった
5	スライドの画像(図・写真)は見やすかった
6	スライドの内容は授業の理解に役立った
7	音声の大きさは適切だった
8	教員の話し方の速さやテンポは適切だった
9	学習の理解に役立つ学習資料の提供があった
10	教員の教育に対する熱意が感じられた
11	教員は学生の質問に適切に答えていた
12	TAは学生の質問に適切に対応していた
13	TAの励ましは学習の継続に役立った
14	ディベートルームは発言しやすい雰囲気だった
15	授業を受けて、より関心が高まった
16	授業内容について、自分自身でもさらに深く調べた

17	(講義科目)小テストの難易度は? (演習科目)演習課題の難易度は?
18	(講義科目)授業コンテンツ(ビデオ・スライド)の学習内容量は? (演習科目)演習課題の量は?
19	受講を終えた全体的な満足度は?
20	授業について、よかったと思う点や来学期も続けてほしいと思う点があれば、ご記入ください。
21	授業について、来学期は改善してほしいと思う点があれば、ご記入ください。
22	その他にも授業コンテンツ(ビデオ・スライド)や授業運営に関してご意見があればご自由にご記入ください。

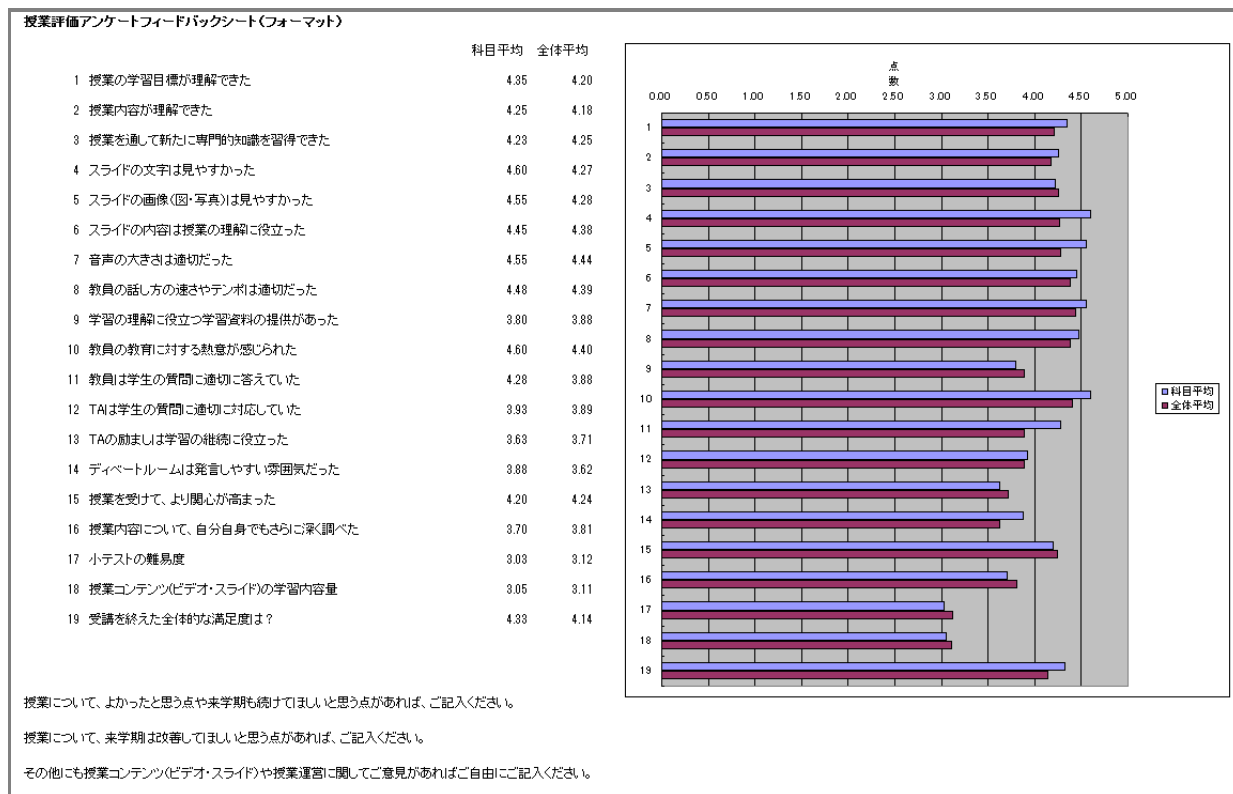
Q1～12 は「はい」「いいえ」の 2 択、Q13 は 5 段階評価、Q14～Q16 は自由記述。

Q	質問項目(卒研研究科目)
1	自分の希望する研究ができた
2	研究テーマや課題について自ら積極的に調べ、熱心に取り組んだ
3	教員・TAに積極的に質問をして理解を深めた
4	研究計画通りに研究を進められた
5	ディベートルームでの学生同士の意見交換は、研究を進める上で役に立った
6	指導は適切に行われた
7	指導時間(量)は適切だった
8	教員・TA は学生の質問に適切にこたえていた
9	Skype での指導では、教員とのコミュニケーションが十分にとれた
10	メールでの指導では、教員とのコミュニケーションが十分にとれた
11	ディベート・Q&A での指導では、教員とのコミュニケーションが十分にとれた
12	研究に役立つ学習資料等の情報提供があった
13	卒業研究を終えた全体的な満足度は? (卒業研究(1)の場合は、中間報告までの全体的な満足度を回答してください)
14	卒業研究を進める中で、よかったと思う点や今後も続けてほしいと思う点があれば、ご記入ください。
15	卒業研究について、困った点、今後は改善してほしいと思う点があれば、ご記入ください。
16	その他にも授業運営(Skype・メール・ディベート・Q&A による指導)、課題、学習資料に関してご意見があればご自由にご記入ください。



### (3)授業評価アンケート結果の閲覧方法

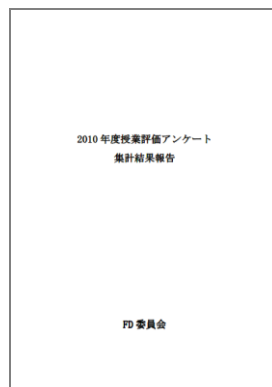
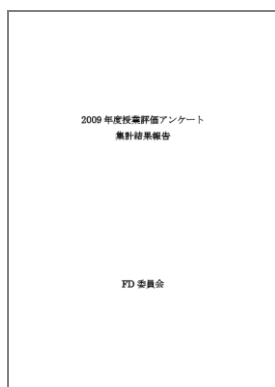
授業評価アンケート結果は、科目ごとに集計し、インストラクショナルデザイナーの確認を経て、FD 委員会より教員へフィードバックを行っている。各質問項目の平均点、自由記述のコメント、併せて学部の講義科目、演習科目の全体平均を掲載している。教員は、授業評価アンケート結果をもとに授業の振り返りを行い、次学期に向けた授業改善に活用する。



### 授業評価アンケートフィードバックシート(フォーマット)

また、回答者数が3名以上の科目で全体的な満足度が2.5ポイント以下の場合、教員は改善計画書をFD委員会へ提出することになっている。改善計画書には、授業評価が低かった原因・理由及び授業改善への具体的な計画を記載する。

授業評価アンケート結果は学部・科目区分ごとに集計し、「授業評価アンケート集計結果報告」としてサイバー大学ホームページ上(<http://www.cyber-u.ac.jp/outline/self-check.html>)で毎年度公開している。授業評価アンケート集計結果については、本報告書では割愛する。

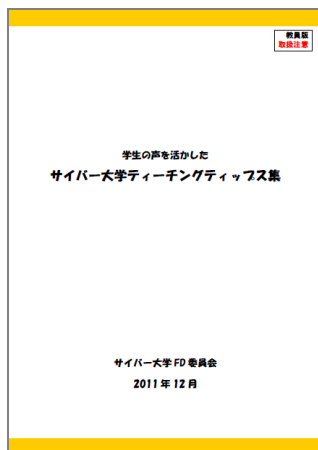


2009年度、2010年度授業評価アンケート集計結果報告

#### (4)授業評価アンケート結果の活用

2011年12月、授業評価アンケートの結果を各科目の授業改善だけでなく全学的な授業改善に活用するため、「学生の声を活かしたサイバー大学ティーチングティップス集」をFD委員として任命された本学のインストラクショナルデザイナーが中心となって作成した。開学した2007年から2010年までの4年間にわたる専門科目の授業評価アンケート結果の自由記述から、特に授業運営に役立つ学生のコメントを整理し、「教えるためのヒント」としてまとめた。

このティーチングティップス集は、2011年12月16日の第2回FD研究会で説明がなされ、アンケート回答者の95%が『「学生の声を活用したティーチングティップス集」は、授業コンテンツ制作や授業運営を工夫するために役立つと思う』と回答している。



「学生の声を活かしたサイバー大学ティーチングティップス集」

#### 「学生の声を活かしたサイバー大学ティーチングティップス集」目次

はじめに
サイバー大学ティーチングティップス集について
1. 授業の準備
2. 授業コンテンツ
3. 演習コンテンツ
4. 小テスト
5. レポート課題の設定
6. レポート課題の評価・講評
7. ディベートルーム
8. グループワーク
9. 学習資料
10. 参考資料の紹介
11. 質問への回答
12. 励まし
付 録
付録1:ティーチングティップス チェックシート
付録2:授業の準備チェックシート
付録3:演習ビデオ制作時のチェックシート

### 3-2. 授業改善計画書

#### (1) 授業改善計画書の概要

授業評価アンケート結果を次学期以降の授業改善に役立てるため、教員は授業評価アンケート結果をもとに TA と授業の振り返りを行い、次学期に向けた授業改善計画書を作成する。この取組は、2008 年度秋学期の授業評価アンケート結果から実施している。授業改善計画書の記載項目は以下の通りである。

- [ I ] この授業であなたが特に力を入れた点、工夫した点は何ですか
- [ II ] その狙いは十分達成されたと思いますか
- [ III ] 学生の授業評価アンケート結果からこの授業について気づいた点は何ですか
- [ IV ] 授業の改善計画
- [ V ] 前学期に立てた改善計画を活用しましたか
- [ VI ] この計画書に関するご意見・ご提案・ご質問等
- ・TA の自己評価・感想・その他(※担当 TA 記入欄)

2011年度秋学期 授業評価アンケートに関する授業改善計画書		CU サイバー大学 Cyber University	
<b>教員名</b>		<b>提出日</b>	
<b>所属学部</b>		<b>科目名</b>	
<b>職位</b>			
<small>・本計画書はFD活動の一環として授業の振り返りを行い、来学期以降の授業改善に役立てていただくためのものです。            ・ご記入いただいた内容は本学のFD活動やコンテンツ改修の検討材料とさせていただきます。            ・本計画書の内容が教員名・科目名が分かる形で学内外に公開されることはありません。            上記をご確認のうえ、各項目について枠内に記入し、FD委員会事務担当までご送付ください。</small>			
<b>授業評価アンケートの得点を参考に、以下の項目をご記入ください。</b>			
<b>[ I ] この授業であなたが特に力を入れた点、工夫した点は何ですか</b>			
<b>[ II ] その狙いは十分達成されたと思いますか</b> <small>(5:達成できた 4:まあ達成できた 3:どちらともいえない 2:あまり達成できなかった 1:達成できなかった)</small>			
<input type="checkbox"/>			
<b>[ III ] 学生の授業評価アンケート結果からこの授業について気づいた点は何ですか</b>			
<b>[ IV ] 授業の改善計画</b>			
<b>[ V ] 前学期に立てた改善計画を活用しましたか</b> <small>(5:活用した 4:まあ活用した 3:どちらともいえない 2:あまり活用しなかった 1:活用しなかった)</small>			
<input type="checkbox"/>			
<b>[ VI ] この計画書に関するご意見・ご提案・ご質問等</b>			
<b>TAの自己評価・感想・その他(※担当TA記入欄)</b>			
<small>※上記[ III ] [ IV ] でご記入いただいた内容に関してご相談がある場合は、○を記入してください。</small>			
<input type="checkbox"/> *			
<small>・コンテンツ制作センターの各学部担当IDer(AIDer)が相談窓口として担当させていただきます。主に来年度に向けたご相談をお受けいたします。            ・相談内容の例としては「授業評価アンケート結果の分析について」、「授業運営について」、「コンテンツ改修について」などがございます。</small>			

授業改善計画書(フォーマット)

授業改善計画書の作成は以下の手順で行う。

1.	教員	授業改善計画書に記入する。 ※授業評価アンケートの得点や前学期に立てた授業改善計画を参考にする。
2.	TA	TAの自己評価・感想欄に記入する。
3.	教員とTA	授業改善計画書をもとに、授業運営の振り返りを行う。
4.	教員またはTA	授業改善計画書をFD委員会事務担当宛にメール送付する。
5.	教員とTA	授業改善計画書を次学期の授業運営に活用する。

授業改善計画書に記載することによって、授業評価アンケートの結果から改善点を見つけ、改善のアイデアを授業改善計画へ落とし込む流れを作っている。授業改善計画書の「Ⅲ.学生の授業評価アンケート結果からこの授業について気づいた点は何ですか」と「Ⅳ.授業の改善計画」について相談がある場合は、各学部のインストラクショナルデザイナー (IDer) へ相談することができる。この授業改善計画書の「※上記[Ⅲ][Ⅳ]でご記入いただいた内容に関してご相談がある場合は、○を記入してください。」の欄に丸を付けると、IDer から教員へ連絡をする仕組みとなっている。受付手順については、「3-4. 授業コンサルティング」で詳述する。IDer によるコンサルティングの実績としては「授業評価アンケート結果の分析について」、「授業運営について」、「コンテンツ改修について」などがあげられる。IDer が過去学期における授業運営方法を分析し、学生間の相互コメントを誘発させる目的でディベートルームの改善提案を行い、2012 年度春学期から実践している科目もある。尚、相談の申し込みにあたっては、その教員が過去に提出した「授業改善計画書」、担当する全ての科目の「授業評価アンケート結果」(過去の結果を含む)を、担当の IDer に開示することに同意する必要がある。

### 3-3. オンライン授業参観

授業改善計画を作成するにあたって、具体的なアイデアを見つけるために他の教員の授業を参観することを薦めている。サイバー大学では、学生専用サイトにおいて全授業を教員に公開しており、いつでも参観することは可能であるが、多くの教員に授業参観を促すため、2010 年度より各学期の授業終了後から次学期の授業開始までオンライン授業参観の期間を定め、FD 委員会より授業参観の実践方法を案内して、教員から参観後のレポートを提出させるようにしている。

授業参観の方法は以下の通りである。

1. 学生専用サイトにログイン
2. 授業コンテンツの視聴／小テスト・ディベート・Q&A、レポート課題等を閲覧
3. オンライン授業参観レポートに記入し、提出する

学生専用サイトでは、履修している学生が見ているのと同じ画面が表示されている。授業コンテンツ、小テスト、ディベートルーム、Q&A、科目のお知らせ、学習資料、クラスメートの情報などを見ることができる。書き込みなどができないよう制限されているため、相手の教員には、授業参観をされたこと自体がわからないようになっている。

さらに、どのような点が参考になったかを「オンライン授業参観レポート」に記載することになっている。オンライン授業参観レポートの記載内容を以下に示す。

1. ご参観いただいた日、参観授業名(科目名)および授業回をご記入ください。
2. 参観いただいた授業のよかった点を具体的にご記入ください。
3. ご自身の授業改善に役立ちそうなことがありましたらご記入ください。
4. その他お気づきの点がありましたらご記入ください。

### 3-4. 授業コンサルティング

2010年10月より、授業改善における教員を支援するため、授業コンサルティング制度を導入した。支援内容は、授業評価アンケート結果の分析、授業運営について、コンテンツ改修などがある。各学部のインストラクショナルデザイナーがコンサルティングを行う。

授業コンサルティングの業務フローを以下に示す。

1. 教員からの支援依頼
  - ・教員は「授業評価アンケートに関する授業改善計画」に、授業改善についての相談を希望するかどうか記入。
  - ・教務部 FD 委員会事務担当が受付
2. 教務部 FD 委員会事務担当より IDer へ依頼
3. IDer による支援準備(AIDer がサポートする場合あり)
  - ・「授業評価アンケートに関する授業改善計画」の確認
  - ・授業評価アンケート結果の分析
  - ・授業観察
4. 教員・IDer 面談(AIDer が同席する場合あり)
5. 教員による改善作業(次学期へ向けて)
  - ・授業運営方法の検討とシラバスの修正
  - ・コンテンツ改修申請書の作成 など (IDer・AIDer が適宜サポート)
6. フォローアップ(希望者のみ)

※開講中も教員の希望があれば相談業務を行う。

#### 4. まとめ

本報告は、サイバー大学においてFD委員会が設置された2009年度から2011年度までの3年間のFD活動の実績を概括したものである。FD委員会では、オンライン大学の特徴を活かしたさまざまな取り組みを行ってきた。教員研修では、講演形式のFD研究会を開催するだけでなく、学生と同じ受講環境を体験しながら本学の教員に必要な知識を学ぶことのできるオンライン研修「FDコンテンツ」を開発した。授業改善では、授業評価アンケート項目の見直しをはじめ、授業改善計画、オンライン授業参観、授業コンサルティングを企画・推進してきた。この3年間で本学におけるFD活動は軌道に乗りつつある状況のため、今後は従来までの一つ一つの授業改善の方策について検証を行い、本学全体の組織的取り組みとして、より効果的なFD活動の実践を目指していく。

---

2009～2011 年度 サイバー大学 FD 活動報告書

2012 年 8 月発行

発行 サイバー大学 FD 委員会

住所 東京都新宿区北山伏町 1-11

電話 03-5206-5200